1998 年 10 月 9 日第三種郵便物認可　（毎月 3 回 8 の日発行）
2016 年 2 月 11 日発行　SSKU　増刊通巻第 5371 号

NPO 法人わくわくかん
編集　〒115-0044
東京都北区赤羽南 2-6-6
TEL：03-3902-9996

http://www.wakuwakukan.net/

SSKU わくわくかん リボン便り

2016 年 2 月号 No. 179

シャケ Zo くん

??なぜリボン??

生まれ変わった
再生したという意味の
（Reborn）。
新しく生まれ変わる
「便り」にしたくて、名付けました。

家族懇談会とは、NPO 法人わくわくかんに関わりのある当事者のご家族の方々が、お互いに悩みを話し合ったり、情報を交換したりしながら、こころの病や福祉サービスの現状と利用方法などを知ることができる場を目的として、月 1 回開催をしています。

“断薬”や“親亡き後”で討論

～家族懇談会 2015 年度から～

◆ 大テーマ・小テーマで毎月開催

今年度は「親亡き後についてを考える」を大きなテーマに、就労・住居・制度など様々な小テーマを 12 か月に分けて開催しています。毎月 10 人前後のご家族の方にご参加頂いています。

参加されているご家族の方からは、「同じ境遇の方がいると一人じゃないと感じることができてほっとする」「いろんな情報が知ることができる」と好評をいただいております。

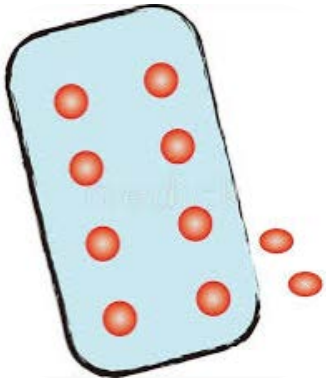
今年度、特に参加者の多かった回は、7 月に行われた「断薬にチャレンジしている息子に父親として今していること」と 11 月の「親亡き後について」でした。

7 月の「断薬にチャレンジしている～」の回では、うつ病を発症された息子さんをお持ちのお父様から、現状などをお話ししていただきました。お父様のご職業である「心理職の立場」と「父親としての立場」の両面から、精神病についての診断方法や環境の変化、断薬のむずかしさ、父親としての子どもとの関わりまで様々な内容のお話がありました。その中でたくさんの意見が交わされた話は、主治医との関係性についてでした。

◆ 主治医をめぐって…

以前は、息子の断薬したいという希望に反対する主治医のため、体調の変化が激しかったそうですが、現在は希望を尊重してくれる主治医に変更し、徐々に減薬することができ体調も回復してきたとのことでした。

そのため「当事者本人に自身に合った主治医と巡り合えることが大切であり、主治医が信頼できる人かそうでないかで体調にも影響してくることがあり得る」ということでした。ご参加くださったご家族からも、病院の都合による主治医の変更や診療時間の違い、服薬調整の難しさなどの戸惑いや葛藤があると話され意見を交換されていました。



◆ 普段やっていないことに挑戦も

また、11 月の回では、わくわくかんのスタッフから今からできる親亡き後の対策として、エンディングノートの活用や遺言状の作成、成年後見制度の紹介をさせていただきました。また、生活面においては買い物、料理、掃除の仕方やお金の使い方、公共料金の支払いなど普段親がやっていてご本人様がやってないものに挑戦してみることをお勧めしました。失敗して体調が崩れることを心配されるご家族の方が多くいましたが、安心して失敗できる環境があるときこそチャンスとみてはどうかとお伝えし、「少しずつ挑戦させてみよう」「うちの子は料理はできるから大丈夫」とご本人様の普段の生活を振り返る機会となりました。

2・3 月では、1 月から始まった「障がい者の就労について」を 3 回のシリーズで行っております。当事者の方の話が聞ける機会ですので、お時間がありましたらぜひお気軽に足を運んでいただければ幸いです。

＜わくわくかん 2 月予定表＞

- ✧ 2 月 13 日（土）はたらっくす　16:00～　自立訓練室
- ✧ 2 月 19 日（金）日本の精神保健―イタリアの実践に学ぶ　14:00～　都庁第一庁舎 5F 大会議場
- ✧ 2 月 20 日（土）ひきこもりのきもち～みんなで知ろう、考えよう～　13:30～　北とぴあ 14F
- ✧ 2 月 22 日（月）現場協議会　16:30～　スカイブリッジ
- ✧ 2 月 23 日（火）家族懇談会　16:00～　自立訓練室

1998 年 10 月 9 日第三種郵便物認可　（毎月 3 回 8 の日発行）
2016 年 2 月 11 日発行　　SSKU　　増刊通巻第 5371 号

わくわく配食サービス

就労継続支援 A 型事業
北区赤羽南 2-6-6
TEL：03-3598-0089
FAX：03-3598-0089

今月のレシピ
カレー肉じゃが

【材料】　4 人分

豚こま肉 ---------- 100g
じゃがいも ---------- 2 個
たまねぎ ---------- 1 個
にんじん ---------- 1/2 個
さやいんげん ---------- 4 本
塩 ---------- 少々
油 ---------- 大サジ 1
カレー粉 ---------- 少々

A
- 砂糖 ---------- 小サジ 1
- みりん ---------- 小サジ 1
- しょうゆ ---------- 大サジ 1

だし汁 ---------- 適宜

♠カレー味がポイントになり、食欲をそそります。

【作り方】

①じゃがいもは洗って皮をむき、ひと口大に切る。たまねぎ、にんじんも同様に切る。
②いんげんは筋を取り、塩少々を入れた熱湯でさっとゆでて、適当な長さに切る。
③鍋に油を熱し、豚肉と①を炒め、カレー粉を加えてさらに炒め、香りが出たら、だし汁をひたひたにして煮る。少し火が通ったら、A の調味料を加えて煮詰める。
④最後に②を加えて、味をなじませる。

昨年もそうだったのですが、年が明けて個人の顧客が新規でかなり入ってきています。年明けで利用停止になったお客さんも結構いるので、個人のお客さんの数は増えたり減ったりですが、長期的に見ると着実に数が増えています。

それに加えて、北区田端にある事業所からの大口の注文が 1 月中旬から決まりました。元の場所が耐震工事中で、田端で現在事業を行っているのですが、耐震工事の仮住まいの間だけ昼食としてお弁当を取っているそうです。もともと取っていたお弁当が、カロリーや塩分が高く、より健康的なお弁当として私たちのお弁当を選んだとのことでした。

仮住まいが終わる 5 月～6 月までの暫定的な注文なのですが、祝日を除く月～金午前の配達で毎回 20～25 食を持っていく形になります。味噌汁を準備したり、ご飯の一つ一つ盛り付けたりすることを考えると、午前の盛り付け・準備は大変になります。ただ、こうやって食数・売上が伸びることは、非常に喜ばしいことだと思っていて、法人内の他事業の職員からも手助けを受けながら、何とかこの忙しさを乗り切っていきたいと願っています。

1998 年 10 月 9 日第三種郵便物認可　（毎月 3 回 8 の日発行）
2016 年 2 月 11 日発行　　SSKU　　増刊通巻第 5371 号

自立訓練（生活訓練）事業 ボランティア響会

通称 響（ひびき）

〒114-0032　北区中十条 1-2-18
北区障害者福祉センター4F TEL 03-5963-6888

忘年会＝望年会での踊り

「響」が赤羽会館ホールの忘年会で「リズム体操」の踊りを発表した出演者の感想です。

☆　本番では自然と笑えた。皆の前で踊れてうれしかった。スタッフをずっと見ていた。(W)
☆　緊張してうまく踊れなかった。(K)
☆　一か所踊りをまちがえてしまったのでそこがなければよかった。人前で踊ることに慣れてきた。(T)
☆　緊張して頭が真っ白でよく覚えていない。表彰されて、大変光栄だった。(O)
☆　当日までに振りつけを意外と覚えられていた。皆と踊れてよかった。(N)
☆　なかなか上手に踊れなかった。(I)
☆　皆と思い出が作れてよかった。まちがえたところもご愛きょうってことで思い出ができた。(H)

＊＊＊＊　＊＊＊＊　＊＊＊＊　＊＊＊＊　＊＊＊＊　＊＊＊＊　＊＊＊＊　＊＊＊＊

1998 年 10 月 9 日第三種郵便物認可　（毎月 3 回 8 の日発行）
2016 年 2 月 11 日発行　SSKU　増刊通巻第 5371 号

就労移行支援事業

プログラムコース

リボーンプロジェクト

〒114-0032　東京都北区中十条 1－2－18
北区障害者福祉センター４F　Tel：03-5963-6888

新たにフォトショップなど3講座

2016 年がスタートしました！！

様々な年末年始を過ごし、1 月 4 日には明るい声で挨拶を交わすことができました。1 月から新たに 3 つのプログラムが開講します。1 つ目は、**フォトショップ講座**です。デザイン系のプログラムはこれまでありませんでしたが、メンバーの方からの希望もあり始めることとなりました。2 つ目は、**MOS 講座**です。以前は技術向上や知識の整理を目的とした内容だったのですが、今後は資格取得のための講座となります。最後に、**ビジネスマナー講座**です。これまで研修等でお伝えしてきたビジネスマナーですが、ここではビジネス実務マナー検定 2 級・3 級、秘書検定の資格取得を目指します。これからもメンバーの方の要望を取り入れ、充実したプログラム提供を心掛けてまいります。

フォト講座での合成写真

「えか流山自然農場　職場見学」

12 月 9 日、千葉県流山市にある株式 ECA で運営する「えか流山自然農場」に職場見学へ行きました。

「えか流山自然農場」では、精神、知的障がいの方がチームを組み農薬や化学肥料を使わない体と環境に優しい農業を実践されています。チームでは、様々な野菜を育てることはもちろん、直売所があり、購入に来るお客さんに商品説明や試食の提供、おいしい食べ方などお伝えする仕事をされていました。

私たちも新鮮な野菜の選び方や収穫の仕方を教えていただき収穫体験。そしてお昼は、焼きそばやとりたて野菜たっぷりのバーベキュー。自然の甘みのあるお野菜の味にびっくり。大量の野菜の土産までいただきとても楽しい職場見学となりました。

「農場で働くことを検討したい」というメンバーもあり働き方の幅を広げる見学となりました。

株式 ECA「えか流山自然農場」の皆さま、貴重な体験をさせていただきありがとうございました。

わくわくかん　全体忘年会
運営を担い　大活躍!!

リボーンプロジェクトは、赤羽会館ホールでの法人全体の忘年会運営という重大な任務を引き受けました。事前準備では、案内チラシの作成から来場者へ配布するお菓子を詰め。当日は受付、会場設営と開会直前まで準備に追われましたが、みんなで協力し合って無事に終えることができました。忘年会では其々の事業所の素晴らしいパフォーマンスが披露され、数多くの景品に盛り上がるビンゴゲームそして、わくわく配食サービスのおいしい料理となごやかな歓談と交流が持てる貴重な機会となりました。

外出プログラム　＜池袋でランチを楽しむ＞

12 月 28 日に、外出プログラムとして池袋までランチに行きました。90 分食べ放題で、どういった順番で何を食べるかと計画を立てて臨む方もいれば、ショーケースに並ぶケーキを全種類制覇すると意気込む方もいました。

全員で同じテーブルに着くことはできなかったのですが、後半は和やかにティータイムになっているところもあれば、最後までデザートを頬張っている人も…。スーツを脱ぎオフィスを出てのプログラムは、年末にふさわしい楽しいイベントになりました。

1998 年 10 月 9 日第三種郵便物認可　（毎月 3 回 8 の日発行）
2016 年 2 月 11 日発行　　SSKU　　増刊通巻第 5371 号

就労移行支援事業

リボーンプロジェクト

就業企業コース

〒114-0032　東京都北区中十条 1－2－18
北区障害者福祉センター４F　Tel：03-5963-6888

新生 MOS 講座がスタート

リボーンプロジェクトでは、これまで MOS※講座を開いてきました。そして、１月より、体制を新たにスタートすることになりました。なぜ” いま “新生なのかそのことにズームインします。

（※MOS とは、Microsoft 社の Word・Excel などの技能を証明する資格試験です）。

いま事務職を希望するのであれば、パソコンは必須のものになっています。実際に求人票を見ると、多くの企業では、“Word・Excel を使った業務” と書かれていたりします。雇用率が上がっているとはいえ、狭き門である状況は続いています。週に 20 時間～30 時間、働けるということは基本的な条件であり、仕事を覚える前提として、“Word・Excel” の操作はある程度知っているものとして選考されます。この “ある程度” と言うところがポイントになります。

単に、「“Word・Excel” を使って研修を積んできました。」と面接で答えても、お互いの基準が一致していなければ、説得力があまりありません。そこで、これまでは、より高度な操作を覚えたい人向けに講座を開き、資格取得は努力目標的な位置付けでした。

したがいまして、ペースもゆっくりで、１回１時間の講座を週に１回、半年をかけて行ってきました。それを、今回からは、より資格取得を目指していくように、１回の講座を２時間とし、週に２回行うようにしました。半年かけて行っていた講座も、試験対策も含めて４ヶ月間で終了となります。

パソコンを覚える時、その対象には ２種類あります。機能を覚える場合と、概念を覚える場合です。端的に言えば、機能は暗記で、概念は思考力です。MOS に関しては暗記重視の学習となります。合格のコツは、専門用語や操作を忘れないうちに受験することです。学習のコツは、問題を読んだら、次に解答を見て、手順を確認することです。実際の試験では知っているか否かで勝負は決まります。したがって、勉強の時は、少し考えて分からなかったら、解答を見て思い出すことです。受験までにそれをどのくらい積みかさねるかが合格のカギとなります。

来春には合格の吉報を便りでお伝えできればと思います。

〈簿記講座〉の感想

★普段使わない言葉が多く、とまどうことも多いです。でも逆に商品券のお店側の処理方法等が分り、おもしろいとも思います。受講している方、全員で資格取得ができたら良いなと思います。　(K. Y)

★学校で勉強すると大金がかかるので、簿記のプログラムを設けて頂き、助かっています。若干、スタッフのペースで進めているなと感じることもありますが、そうしないとスケジュール通りにならないので計算してるなと思います。　(H. T)

★とても、わかりやすく、受講している１人１人が確認できるペースです。今後とも同じ方向性で良いと思います。　(H. S)

1998 年 10 月 9 日第三種郵便物認可　（毎月 3 回 8 の日発行）
2016 年 2 月 11 日発行　SSKU　増刊通巻第 5371 号

第 11 回　わくわくかん　家族懇談会のお知らせ

開催日時：　2016 年 2 月 23 日（火）16:00～17:00
場　　所：　障害者福祉センター　4 階　自立訓練室
内　　容：　障がい者就労について②　　当事者の視点で感じる事
個人面談：　※（事前にお申し込み）17:00～
連 絡 先：　TEL　03－5963－6888　FAX　03－3906－9997

熊本のおれんじ村が 30 周年企画

3 月 5 日 PM1～4 時　熊本市国際交流会館ホール

2015.2 熊本市人権フェスティバルにて

1985 年に養護学校を卒業した障害当事者 3 人の「障害があっても地域に生きる」との想いから始まった熊本市のおれんじ村は、池田大輔さんの命名でスタート、水俣の無農薬甘夏みかんの販売や粉石けんの袋詰めにはじまり、グリーンコープの牛乳パック整理作業などを経て、30 年を迎えます。

3 人の想いは、たくさんの人に支えられ、多くのなかまへと広がり、しっかりと引き継がれてきました。

活動のテーマは「労働」です。私たちの考える労働とは、仕事を通して「自分らしさ」を発揮し、地域社会に貢献し、生活の糧を得るということです。それは障害のあるなしにかかわらず、だれもが人間らしく生きていくための権利なのです。現在、おれんじ村では約 40 人のなかまが共に働き、地域の中で共に暮らすことができるまでに成長することができました。

30 周年記念企画として、反差別・人権というテーマで、講演だけでなく音楽、演劇などの芸術活動で、参加者と一体となり楽しみながら、反差別・人権について考えることのできる場となるよう企画しています。

相模原・八王子・日野のフィールドワークの一口感想

東京・日野の認定 NPO 法人やまぼうしを中心をする「城山湖里地里山観光振興協議会の 12 月 12 日の視察研修アンケート結果」から一口感想をひろってみました。

① 法政大学エッグドーム

日頃から利用させてもらう機会があったので、そのような経緯あったのかと初めて知った。もっと利用していきます。

② 倉沢の里山

地域で里山を守っていて、大きな存在になっていると感じた。また、大勢の参加による活動によって、人が自分の住む町に貴重な自然が残っていると認識させることは、とても重要であると思う。

③ せせらぎ農園

特にルールや当番がないのに活動が進んでいるのはなぜだろうと考えさせられた。ふらっと立ち寄れたり、保育園児に体験させるなど、この畑が住民にとって身近な存在になっていた。

④ ふれあいの森カフェ

障害のある方が生き生きと仕事をしている姿はとても印象に残った。とても料理がおいしかったです。

⑤ やまぼうし平山台

小学校って、大きくて部屋もたくさんあって、廃校を活かして色々なことができるということを実証されていて、素晴らしかった！！

⑥ ユギ村牧場

「農業」に対しては、若手不足、お金不足といったネガティブなイメージがありましたが、若い人たちを中心に、これからの「農業」の可能性が人と人とのつながりの中にあると感じました！！

⑦ その他　自由意見・全体的な感想

どのような地域にも、必ず「宝」・魅力的なものがあり、城山も例外ではないと思う。問題は、それを見つけ出し、いかに利用するのかどうか。

1998 年 10 月 9 日第三種郵便物認可　（毎月 3 回 8 の日発行）
2016 年 2 月 11 日発行　SSKU　増刊通巻第 5371 号

連載　精神病は自分とは関係ない!?⑤

1999（平成 11）年頃、私はクリニックのディケアに半ば強制的に通院させられていました。病気がどうやったら治るのかわからなかったのです。そして、どういう状態になったら逆に病気が治った事になるのか？と考えるようになっていました。

とにかく、病院ではなく、社会に出て働かないといけないと、考えました。何をして食べていこうか？と考え、機械工学科を出ていたことから、そしてそれまでの職歴から「冷凍機械」で食べて行こうと心に決めました。

正直悔しかったのです。何も知らないと思って、さんざん馬鹿にされたり、酷い目にあってきました。冷凍機械の資格を取る事で復讐したかったのです、見返してやりたかったのです。そして、クリニックに通いながら図書館に参考書を買って通いました。ディケアのプログラムには出ず、目白図書館に通ったのです。かなり、強い薬を飲んでいたので、動作は緩慢で、頭もボーッとしていました。勉強していても、全然語句が覚えられませんでした。そんなだから、冷凍三種試験にも落ちてしまいました。それでも、諦め切れなっかったのです。一度しかない自分の人生だったからです。

そこで、インターネットや職業安定所で調べると、赤羽に冷凍技術を専門に教える職業訓練校があるのを知りました。私は失業保険の期限が切れていて、手当がでないのですが、一年間、この職業訓練校に通うことに決めました。倍率は低く入学試験は比較的簡単でした。主治医は「頑固だ。生活保護を受ければ楽なのに」というような事を言ったと思います。

冷凍技術にこだわり資格を取る

障害をもって生きることが闘い

この頃から私は障害者が生きること、それ自体が闘いだと思うようになっていました。訓練校の一年間は確かに友人もできましたが、闘いでした。まず、父親が協力的ではありませんでした。朝食、夕食と自炊しました。昼食は自分で手弁当を作って持っていきました。当時、デフレ真っ最中で、八百屋でキャベツが 100 円で売っていました。肉は高くて買えないので、そのキャベツを玉ねぎと炒め、しょう油をかけておかずとしました。たまに父親が買ってくる豚肉が、唯一の贅沢でした。逆風の中、環七の坂道をえんえん登って、歩いて通いました。体重も 10Kg位落ちました。そして、ボイラー2 級技士と冷凍三種試験に合格しました。技能士補の資格もとり、就職も決めました。薬の量も少しこのとき減ったようでした。

専門学校を卒業した後、会社に勤めました。同じ専門校出身の H さんという中国で医者をしていたという中国人といっしょに入社しました。最初の頃は良かったのです。従業員 20 名程度の小さな会社でした。工場の仕事から、製品の搬入、現場仕事となんでも引き受けました。病院に通っている負い目があって、仕事を断る事ができませんでした。そのせいか、一年を経つ頃になると体調をくずしました。冷凍、冷蔵のプレハブ倉庫を作る仕事で、朝は始発電車から会社に行き、夜は終電近くまで働くという生活が続いていました。残業手当は会社の都合で、ついたりつかなっかたりしていました。ある時気がつくと、自分の部屋の中が、栄養ドリンクの空き瓶が散乱しているような状態でした。日曜日は金縛りにあったように眠っていて、かたずける気力が残っていませんでした。実際、このときは良く働くという事で、病気のことはばれていたはずでしたが、何も言われませんでした。しかし、私はそんな奴隷のような生活が耐えられませんでした。ある朝、会社にどうしてもいけなくなりました。電話をしては休むということを二週間くらいやってしまいました。主治医に相談して、診断書を書いてもらい、また会社をやめてしまいました。それでも働きたいという気持ち、冷凍技術で食べて行こうという気持ちは続きました。CAD の専門学校へ今度は失業給付をもらいながら通いました。そして、冷凍倉庫の扉を製造している会社に就職しました。AUTOCAD という製図用のコンピューターソフトを使い図面を書きました。冷凍機械の資格も三種から二種へとさらに上位の資格に合格しました。状況は安定しているかのように思われました。しかし、病気の事がまたばれたのか、ある時、ある月から給料が 2/3くらいになってしまいました。会社は景気が悪いからと説明するのです。「御苦労様」と専務に言われ、私はまた会社を辞めてしまいました。そんなことの繰り返しでした。一年から二年の間に病気のことがばれるのです。資格の試験勉強だけは失業中にもしていました。講習会にも積極的に出ました。いつしか第一種冷凍空調技士試験に合格して、大臣試験と呼ばれる第一種冷凍機械試験にも合格しました。「資格は足の裏の米粒だ」と言った人がいました。「取らないと気持ち悪いが、取っても喰えない」ということです。まさにその通りでした。何社会社を変えたか覚えていない程です。2003 年に母親が他界し、2005 年頃父親が脳梗塞で入院しました。私は 10 年以上いたクリニックを替え、別のクリニックに席を移しました。私は世の無常というもの、人の運命のようなものを強く感じました。そして、立身出世とか結婚とかいう普通の幸福をあきらめました。同時に障害者手帳を申請して、取得しました。何か私の中でパキッと折れるものがあったのです。私はある時ある意味、人生を降りたのだと思うのです。　（E.H）

1998 年 10 月 9 日第三種郵便物認可　（毎月 3 回 8 の日発行）
2016 年 2 月 11 日発行　　SSKU　　増刊通巻第 5371 号

働くこと

ウッドペッカー
（グループホーム　わくわくかん）

働くことはすごーく大変。
でも働いて、お金を貯めたり、好きな物を買ったりする。
皆さん方は働くことについて、考えたことはありますか？
私は作業所で働いて、仲間に「繰り返し（同じ間違え）ばかりしてるじゃん」と言われて、私は「もう私なんかいない方が良いんだ。死にたい。作業所ももう辞めたい。」と言って、本気でそう思っていて、作業所も休んでいた日もある。

投稿

その経験をした今は、それを直そうと努力している。
でも、働くと工賃は頂ける。
それに、私は働く上で、夢も実現している。
まずは「東京で暮らすこと。」「ホテルで働くこと。」この二つは実現できた。
ただもう一つは「詩の本を出すこと。」これは実現できていない。
でも今、こうして働き続けている。

自分では、できない事にぶつかりながらも、何度もチャレンジしている。
誰にでもやればきっとできるのだから、私はやればできると信じて働いている。
皆さん方も、きっとそれぞれにあると思う。
だけどやり直しはできるから、諦めずに前に進み、働き続けて、お互いに頑張ろう。
働くことは、つらいことも、苦しいことも、悲しいことも、いっぱいある。
働くことは、素晴らしい。

就労支援センター北わくわくかん

登録者　（2015 年 12 月末）　557 名
就職者　10 名（事務補助、軽作業）

先月　ご協力いただいた皆様

北区障害福祉課・北区社会福祉協議会・北区障害者福祉センター・東京都障がい者就業支援事業所の会・東京都心身障害者福祉センター・ハローワーク王子・池袋・春日部・東京障害者職業センター・東京しごと財団・行政書士阿部総合事務所・東京都福祉保健局・生活クラブ生協東京・㈱IVOO・NPO 法人派遣労働ネットワーク・プレカリアートユニオン・ワーカーズ・コレクティブスーユンタン・ワーカーズ・コレクティブネットワークジャパン・北精連・みのわマック・日本てんかん協会・㈱ECA・ワーキングトライ・ドリームヴィ・帝京大学 HP
他多くの方にご協力いただきました。

グループホームわくわくかん

現在、男性 2 名、女性 4 名の方が入居中です。12 月 30 日に皆で年越し会を行いました。男性ホームと女性ホームとの交流は普段無いため、初対面の方がちらほら。男性入居者の N さんは、臆する事なく、ご自身の大好きな AKB や鉄道の話を披露。それにつられ、他の皆も好きな音楽の話で盛り上がるのですが、芸能界に疎い男性世話人は頭に？？？マークが飛び交います。締めはモノポリーのボードゲーム。残念ながら誰もルールを知らないため、モノポリーの勉強会になってしまいました。OB の S さんやヘルパーの M さんも参加し、とても楽しく年を越せました。

▼編集後記▼

年明けからわくわくかんは 2 月 19 日に都庁で開かれる「日本の精神保健を外から見れば～イタリアの実践に学ぶ～」の都と都精民協のチラシ印刷・発送や会場準備の下見であたふたしている。なぜ今イタリアなのか？ この機会に精神障がいに関わる当事者を含めたおおぜいの人が 1970 年代に、バザーリア医師の精神病院解体に始まり、1991 年に成立した社会的協同組合法による当事者を地域で雇用する B 型の運動に改めてまなびたい。それは福祉から就労への世界的流れをつくった。共同連のわっぱのなかまがイタリアを訪ねたビデオがある。韓国の社会的企業育成法もその実践の影響から生まれている。そして今年、イタリアでは協同組合の 3 つのセクターが全国統一するという。市場の一般就労しかない日本と違って、第三の働き方がさらに広がり深まる。

発行所　郵便番号 157-0073　東京都世田谷区砧 6-26-21　特定非営利活動法人障害者団体定期刊行物協会　定価 100 円（会費に含む）